Chairman's Talk

歴代会長が語る AMDDの10年

第2代会長　デイビッド・パウエル（2010−2012）

私はAMDDの2代目会長として、AMDD会員企業が医師や病院、官公庁と緊密に連携し、デバイスラグやデバイスギャップの縮小に取り組む役割を担ったことを誇りに思っています。我々の目標は、先進医療技術の限りない可能性と、そのようなイノベーションが日本の医療制度改革にどのように大きく貢献できるかについて、より多くの人々に理解していただくことでした。

特に当時の重大な課題であった為替レートの問題をはじめとして、我々が対処したさまざまな重点事項について、AMDD理事会、スタッフ、会員企業の皆様の協調的なチームワークとリーダーシップの取り組みは、非常に素晴らしいものでした。その間、AMDDは詳細なデータ分析、医療機器や体外診断用医薬品（IVD）の承認プロセスに関する多国間の比較、様々な償還のあり方について考え、それらの提言等を、厚生労働省や政府、その他政治関係者、主要なオピニオンリーダーと共有しました。AMDDは、政府の委員会や作業部会への意見陳述のほか、研究結果を明確に共有する取り組みにおいて様々な提言書も発行しました。また、有益な新製品を日本の医療制度に導入するための承認プロセスを迅速化することを第一にAMDD一丸となって注力し、競合企業ですら立場を超えて社会の利益のために協力して取り組んだのです。

2011年3月11日金曜日に東日本大震災が発生し、日本の東北地方沿岸部は津波に襲われました。この悲惨な災害によって被害に遭われたすべての方々に深い哀悼の意を表するとともに、そのような時でもこのAMDDの協力体制が一層の効果をもたらしている様を見られたことは、非常に幸運であったように思います。AMDDの会長として、すべての会員企業が主要な政府関係者や組織と緊密に連携・協働し、社会全体の重要なニーズや我々のヘルスケアシステムのニーズ、そして地震や津波およびそれに起因する原発事故で被害を受けたすべての方々のニーズに応えることは、まことに重要なことでした。また、私の前のワング前会長は関係者とともに、私やAMDD幹部と密接に協力し、我々の対応を最大限に高めてくれました。

震災直後そしてその後も余震が続く中で、AMDDおよび厚生労働省は、病院やクリニック内外への原発エリアを通る医療品の輸送、返品の取扱方法、その他のこれまで経験したことのない状況に関する非公式のガイダンスを早急に作成する必要があることを実感しました。社会にとっては困難な時であり、私や家族にとっては、日本に残ってAMDDや政府のリーダーたちや、自社のすべての社員との緊密な連携をしっかりと継続させるのに重要な時でもありました。

AMDDが成長を重ねられた年月にその一員として携わり、社会の随所で非常に多くの有能で協力的なリーダーたちとともに協働できたことを、誇りに思い感謝しています。我々はデバイスラグやデバイスギャップの縮小を実現し、今なお続く改善の歩みへと踏み出すことができたのです。私を成功へと後押しするとともに、日本の医療制度や社会の素晴らしい側面を学べるよう懸命に尽力してくれたすべての人々に、深い感謝の意を表します。そして、次の新たな10年に入ったAMDDの素晴らしい成功を願っています。

（元ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社代表取締役社長）